

2017年度 学校法人 三幸学園 福岡ビューティーアート専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 蒲生 康子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 松岡 龍

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・退学率の低減

・社会に適合できる、必要とされる人材を育てる

(1)基礎指導の徹底(あいさつ・返事・言葉づかい・時間管理・体調管理・笑顔・清掃)

(2)主体性の育成

(3)資格取得

(4)技術の向上

⇒以上を達成するために、「担任教員と教科担当教員の情報共有を密にしていくこと」「産学連携の強化」に取り組んでいく。

②学校関係者評価委員会コメント

・企業側としても、若手人材に求めるものは技術的なものよりも、社会人基礎力などを重視している為、そういった教育に力を入れている点が評価できる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・目指す業界では「自ら考え行動する」ことが求められる。この「自ら考え行動する」ことを日々の授業や就職指導において意識して指導していく必要がある。また、長く働くことが出来る人材育成が必要とされる。
- ・地域に根ざした業界の動向を把握し、就職現場がどのような技術・人材を求めているのかのニーズを、把握することが必要とされる。

② 今後の改善方策

- ・就職先となる美容各方面へのニーズのヒアリングや、輩出した卒業生のその後の動向などを把握して専門学校教育の授業や就職指導に反映させる。また、職業理解をさせることで実際に働いたときをよりイメージさせ、働く意味を理解させる。
- ・学校の教育の技術・知識面、接遇、心構えの面など、現在の社会または生徒のニーズに合っているのかを把握していく。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・継続して浸透に努めて頂きたいと感じる。
- ・企業、現場は検定、技術も大切ではあるが物事に柔軟に対応できることが重要。基礎的な社会人としての振る舞いが身につけていることを企業として望んでいる。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・教育業務を行う上で、職員室での運営機能の向上が求められる。事務的処理、会議運営、振り返り改善などをより高いレベルでシステム構築する必要がある。また、常に業務改善を行い効率化を図ることが必要とされる。次年度に wi-fi など校舎に設置していく。

・学校運営面ではコンプライアンス遵守の理解と実践、また生徒指導面ではハラスメント防止や生徒の多様性の理解などが求められている。

WEB 掲示板を立ち上げ運用しているが活用が十分ではない。

②今後の改善方策

・業務のシステム化・マニュアル化、情報システム化による業務効率化を進める。

・部門内業務などフローの再点検と、人員配置の見直しによる業務の効率化を図り、教育にかける時間を増やしていく。

③ 特記事項

・年3回の全教職員参加の全体会議の実施による、運営方針の浸透や情報共有ができています。

・教員同士の授業交換や、実技授業を一人体制から可能な限り2人体制を増やす、グループを分けるなど教育の質の向上に努めた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・企業内でもコンプライアンス体制の取り組みを行っており、離れた指導者よりも夜近い存在の相談相手がいることが望ましい。学生も教員だけではなく1つ上の先輩など親しみのある人と接する機会が多いことが重要。

.

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

現場により近い環境を整え、やりがい、達成感、厳しさ、行動力などより現場力を身に付ける必要がある。卒業生アンケートや授業アンケートを活用し結果を受け止め、より改善を図ることが重要である。

② 今後の改善方策

- ・授業アンケートや卒業生アンケートの結果に対し、重点項目を絞り、新年度の改善項目明確にすることが重要。
- ・実習先においては学校教育に理解のある企業が増えてきているが、今後は生徒の希望サロンが確保出来る様、開拓を進めていく。また実習終了後、教科の先生間で情報交換しておく。
- ・業界の変化に伴い、現場により近い知識や技術が提供できる様、常に最新のシラバスや授業内容を目指す。

③ 特記事項

- ・講話の充実を図った。

美容科:卒業生による講話(学校生活・企業選び・入社後について・独立について)

教員技術向上のデモンストレーション

トータルビューティ科:

ネイルコース:最新技術について(デモンストレーション・求められる人材について)

メイクコース:技術向上手合せ

エステコース:最新器具、商材取扱いデモンストレーション・企業講話

④ 学校関係者評価委員会コメント

・現場においても自らスキルアップのために個人で学ぶ従業員も増え、プラスの技術を求めている。広く学べるカリキュラムは将来の選択肢が広がる。また、現場の方からの実践授業の充実が図れており実践的な教育ができてい

る。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・学率低減のための、下記のような生徒の生活面や心理面での指導・サポートが必要である。

①精神的に弱い生徒への指導やサポート(強く叱ると精神的に落ち込む、集団行動ができない)

②学力が著しく低い生徒への指導やサポート(会話や文章の能力が低い)

・業界の現場との差が生じないよう、社会の考えを取り入れた学生指導を日々取組み、離職率を減少に繋げる。

・卒業生がどこの企業でどのように活躍をしているか発信することで就職への意欲を高める。

② 今後の改善方策

・卒業生がいる就職先の案内を強化することで就職先に対する不安の解消を図る。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

・一般論であるが、今の若者の傾向は「無理をしたくない」「安定したい」人が多く、「特別」を望まないように感じる。企業としては自分の言葉で企業へ思いや美容に対しての本気度などを伝えられる方を望んでいる。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・学生の相談にのる体制は設けているが、生活面や経済面での具体的な支援体制は十分と言えない。
- ・保護者への確認、報告、相談などの連携は取るようにしているが、遠方の保護者に対して、面談や緊急を要する際の対応や依頼が十分でない場合がある。

② 今後の改善方策

- ・生徒が、自身の悩みなどを相談しやすい雰囲気づくり、また担任に伝えやすい環境をつくる。
- また、授業内においても学生の変化(表情・態度・体調など)に気付き、教員間、教科会などで情報共有の強化を行う。

③ 特記事項

入学前、学期ごとなどには、保護者様への定期連絡(入学後の電話がけ、成績発送など)を昨年度に引き続き行なった。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・メンタル面のサポート就職支援の1人1人対応する取り組みが評価できる。
- ・卒業生に向けてセミナーや在校生向けなども企業と連携していくと良い。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・設備の老朽化が進んでいるため、冷暖房等の故障が頻発している。
- ・常に質の高い教育環境、体制の整備が求められる。

② 今後の改善方策

- ・事前点検をしっかりと行い、修繕箇所を早めに見つけ対応していく。
- ・インターネットや動画を用いた授業ができる環境の設置された教室を目指す。

③ 特記事項

- ・海外研修(ロサンゼルス研修、バリ島エステ研修)を任意で実施している。
- ・教員間での防災マニュアルの読み合わせ、学内においては避難場所の確認を行なった。
- ・校舎不良場所の設備改善を常に行なった。

《おもな教育施設》

- ・美容実習室
- ・メイク実習室
- ・ネイル実習室
- ・エステ実習室

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・実習については各企業と連携し実習内容をプログラム化し学ぶ機会を増やすことをしていくと良いのではないかと。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・募集活動は適正に行い、資格取得率、就職率等、パンフレットで伝えているため、課題は特にないと考えている。

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

③ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・更なる法令遵守を徹底していく

② 今後の改善方策

全体で集まる会議や配布物を通して、関わる全ての教職員へ継続して啓蒙していく

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・教育訓練の受託はしているが、希望者が出ていない。

② 今後の改善方策

③ 特記事項

・今年度、美容科にハローワーク（長期高度人材育成コース）より学んでいる
・本校では地域への貢献策として、生徒のよる地域清掃と教職員による博多駅周辺のクリーン活動を定期的に行っている。

〈事例〉

・大丸百貨店における、サロンワーク（メイク・ネイル・エステ）
・西新商店街イベントでの生徒による技術提供
・ラグビーワールドカップ関連試合イベントでの姉妹校合同イベント技術提供
・企業イベントでのサロンワーク（メイク・ネイル・エステ）
・東京ガールズコレクション（KITAKYUSHU）ブース提供
等、他にも多数実施。

④ 学校関係者評価コメント

・これからも地域におけるボランティアやサロンワーク等を続けてほしい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

業界の現場の意見を取り入れ、さらに現場に求められる人材育成を行う。

年々、フォロー体制が良くなることは良いが考える力がなくならないよう体制を管がていく必要がある。

今年度はより退学率の一層の低減を図っていき、教員の教務力向上やクラス運営力の向上についてより積極的な取り組みが必要である。

また、挨拶や清掃活動なども引き続き指導し、就職後も引き続き行動できる人材育成に努める。

自己評価の結果は概ね問題ないが、地域や業界から必要とされる学校になるために課題をしっかりと把握し学校を運営していく必要がある。

平成30年度では重点的に取り組むこととする。

1.退学率低減

2.マナーや言葉の選択、自ら考える力の強化

3.コミュニケーションを自らとれるよう挨拶徹底

4.地域清掃活動を引き続き取り組み、今後はボランティアなどに参加も検討